2021年3月17日

各　位

会　社　名　株式会社ゼネラル・オイスター
代表者名　代表取締役社長　吉田　秀則
代表取締役　ＣＥＯ　丹野　裕介
（コード番号：3224　東証マザーズ）
問合せ先　経営管理本部　執行役員　本部長　芝田　茂樹
（TEL.03-6667-6606）

〈マザーズ〉投資に関する説明会開催状況について

下記のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

掲載日時	2021年3月17日（水）～
掲載方法	インターネットを利用した動画配信
掲載場所	当社ホームページ http://www.g-oyster.com/IR/
説明会資料名	2021年3月期　第3四半期決算説明資料

【添付資料】
１．動画の収録時において使用した資料

以　上

2021年3月期 第3四半期決算 補足説明資料

株式会社ゼネラル・オイスター

（3224）

General Oyster

2021年2月12日



1. 2021年3月期 第3四半期 トピックス



2021年3月期 第3四半期 決算ハイライト

General Oyster

1 コロナ禍に伴う店舗休業等の影響により大幅な減収となったが、第３Qは黒字化達成

第３Q（10～12月）は、コロナ禍の再拡大（第3波）に伴う営業時間の短縮などにより、売上高は前年比17.4%減と落ち込んだが、四半期ベースでの黒字化を達成。

2 売上高は回復傾向にあったものの、11月下旬以降はコロナ禍再拡大により失速

店舗事業の売上は、Webの予約システムの改善などで、予約数も順調に増え、9月は対前年で89.3%、10月は98.2%まで回復。ただし、11月下旬以降、コロナ禍再拡大（第３波）の影響により失速。

3 withコロナの経営スタイルに移行し、損益分岐点を引き下げ、筋肉質な体制に

グループ全体でのコストコントロールを効かせた経営スタイルに移行したことに加え、雇用調整助成金等の活用により、第２Q以降、損益改善が進展。

4 8月に立ち上げた「EC通販事業」が急拡大。新たな販路確立に向けて大きな弾み

巣ごもり需要の取り込みにより「EC通販事業」が急拡大。まだ小規模ながら、新たな販路確立に向けて大きな弾み。

5 世界初のウイルスフリーの牡蠣の陸上養殖の特許技術が、台湾、アメリカでも取得

沖縄久米島で取り組んでいる、世界初のウイルスフリーの牡蠣の陸上養殖の特許が日本以外で、台湾、アメリカでも承認。現在、他の地域にも申請中。今後の世界展開へ知財を確保。

Withコロナの経営体制

経営基盤の強化とコロナ禍での売上確保に向けて、守りと攻めの取り組みを進め、筋肉質な体制に

	1Q			2Q			3Q		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
既存店売上高 対前年比	7.6%	13.9%	62.3%	70.3%	67.5%	89.3%	98.2%	90.3%	68.6%
店舗 状況	・4月からの緊急事態宣言で、多くの店舗が休業 ・緊急事態宣言解除後、徐々に店舗再開			・7月下旬からコロナ禍の再拡大（第2波）による時短要請で、多くの店舗が時短営業			・9月以降順調に回復 ・11月下旬からコロナ禍の再拡大（第3波）により、再び時短営業		
取組 内容	・キャッシュアウト削減の観点から店舗及び、全国の拠点（センターや加工工場等）で機動的な稼働体制へ転換			・通販（EC）サイトのスタート ・店舗のネット上の顧客とのアクセス環境の整備（web予約システムの改良、検索サイトの構造化への対応）			・非接触型の店舗運営のテストをスタート（QRコードによるオーダーシステムの準備や、OPCポイントのチャージ機能の開始）		
四半期純損益	△206百万円			△20百万円			＋38百万円		
	大幅な赤字の計上			１Qより赤字幅が大幅に減少			黒字化達成		

損益分岐点を引き下げ、withコロナに対応した経営体制に改善

連結損益計算書概要（累計）①

General Oyster

第3Q（累計）の業績は、コロナ禍の影響により大幅な減収減益となり、損失幅が拡大。
ただ、コスト抑制による損益分岐点の引き下げ等により、第3Q（10～12月）では黒字化を達成。

（百万円）	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	増減額	ポイント
売上高	2,783	**1,778**	△1,005 (-36.1%)	・店舗事業、卸売事業ともにコロナ禍の影響を受け、前年比36.1%減の減収。
売上総利益	1,825	**1,136**	△689 (-37.7%)	・
販管費	1,902	**1,394**	△508 (-26.7%)	・売上減に対応するためコスト抑制の取り組みを実施し、前年比508百万円の削減を実現
営業利益	△77	**△258**	△181	・
経常利益	△84	**△266**	△182	・
親会社株主に帰属する **当期純利益**	△59	**△188**	△129	・

連結損益計算書概要（四半期推移）②

General Oyster

コロナ禍による第１Qの大幅な落ち込みから、売上高及び利益ともに回復傾向にあり、第３Qは黒字化（四半期ベース）を達成。ただ、11月下旬以降はコロナ禍再拡大により失速。

	第1四半期（4月～6月）			第2四半期（7月～9月）			第3四半期（10月～12月）			第3四半期累計（4月～12月）		
	2020	2021		2020	2021		2020	2021		2020	2021	
	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）
売上高	803	**231**	-71.2	922	**673**	-27.0	1,057	**874**	-17.3	2,783	**1,778**	-36.1
売上原価	280	**94**	-66.1	333	**246**	-25.9	345	**301**	-12.9	958	**642**	-33.0
売上総利益	523	**136**	-73.9	589	**426**	-27.7	713	**572**	-19.5	1,825	**1,136**	-37.7
販管費	594	**350**	-41.1	647	**502**	-22.4	658	**542**	-17.9	1,902	**1,394**	-26.7
営業利益	△71	**△213**	-	△58	**△76**	-	54	**31**	-40.5	△77	**△258**	-
経常利益	△70	**△212**	-	△58	**△82**	-	45	**28**	-36.8	△84	**△266**	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△63	**△206**	-	△49	**△20**	-	54	**38**	-28.0	△59	**△188**	-

貸借対照表概要

General Oyster

コロナ禍の長期化に備え、長期借入金により手元流動性（5億円）を確保。

（百万円）

資産の部	2020年3月期 期末	2021年3月期 第3四半期	負債・純資産の部	2020年3月期 期末	2021年3月期 第3四半期
流動資産	347	783	流動負債	778	761
現金及び預金	124	500	支払手形・買掛金	101	110
売掛金	111	202	短期借入金*1	349	391
棚卸資産	94	51	その他	328	260
その他	18	28	固定負債	514	1,004
固定資産	1,218	1,174	長期借入金*2	67	577
有形固定資産	989	948	その他	447	427
無形固定資産	2	1	負債合計	1,293	1,766
投資その他の資産	227	225	純資産合計	272	191
資産合計	1,565	1,957	負債純資産合計	1,565	1,957

*1．1年内返済予定の長期借入金及び1年以内に償還予定の社債を含む
*2．社債を含む

セグメント別業績概況

General Oyster

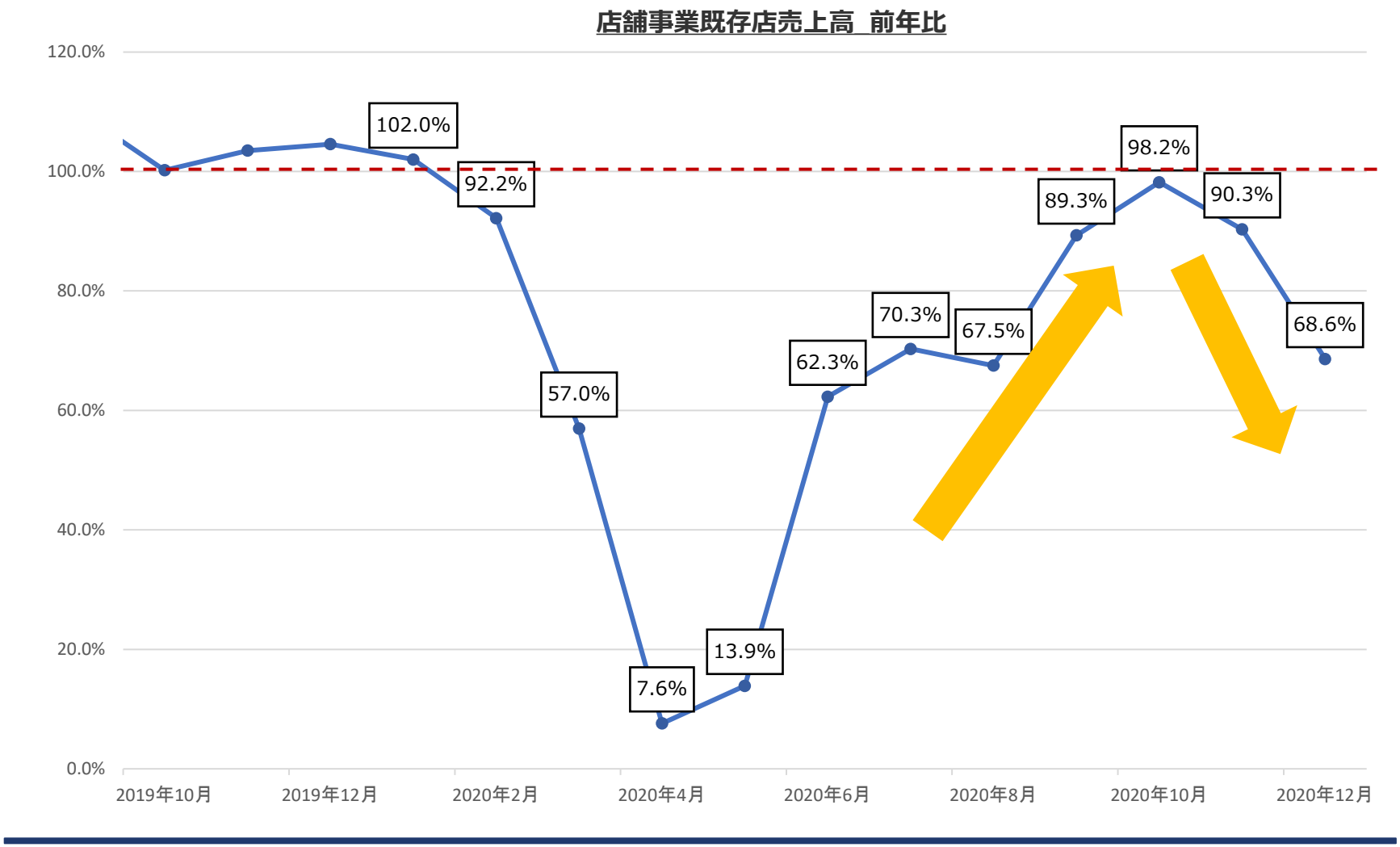
コロナ禍の影響を受けて、「店舗事業」が大きく落ち込む一方、「卸売事業」は黒字を確保。
「浄化物流事業」及び「その他事業（陸上養殖、加工事業等）」は経費削減により損失幅が縮少。

（百万円）		2020年3月期 第3四半期	2021年3月期 第3四半期	前年比（%）	ポイント
店舗事業 オイスターバーレストランでの飲食サービス	売上高	2,543	**1,630**	-35.9	コロナ禍に伴う店舗休業等により、減収減益。売上高は前年比35.9%減に落ち込み、利益面でもかろうじて黒字を確保。
	営業利益	267	**3**	-98.7	
卸売事業 生牡蠣や牡蠣の加工品の外販卸売り	売上高	216	**138**	-35.9	取引先もコロナ禍の影響を受けており、取引高が大きく減少したものの、利益面では黒字継続
	営業利益	89	**42**	-52.0	
浄化・物流事業 生牡蠣用の浄化センター、および物流事業	売上高	465	**385**	-17.1	コロナ禍による事業への影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、工場やセンターなど拠点の一部稼働休業、時間短縮など機動的な稼働体制へ転換し、経費を抑えることができた。
	営業利益	△162	**△79**	―	
その他 陸上養殖、加工事業、種苗など	売上高	168	**58**	-65.3	
	営業利益	△146	**△89**	―	
調整額	売上高	△610	**△434**	―	
	営業利益	△125	**△135**	―	
連結財務諸表計上額	売上高	2,783	**1,778**	-36.1	
	営業利益	△77	**△258**	―	

【店舗事業】 既存店売上高 前年比の推移

General Oyster

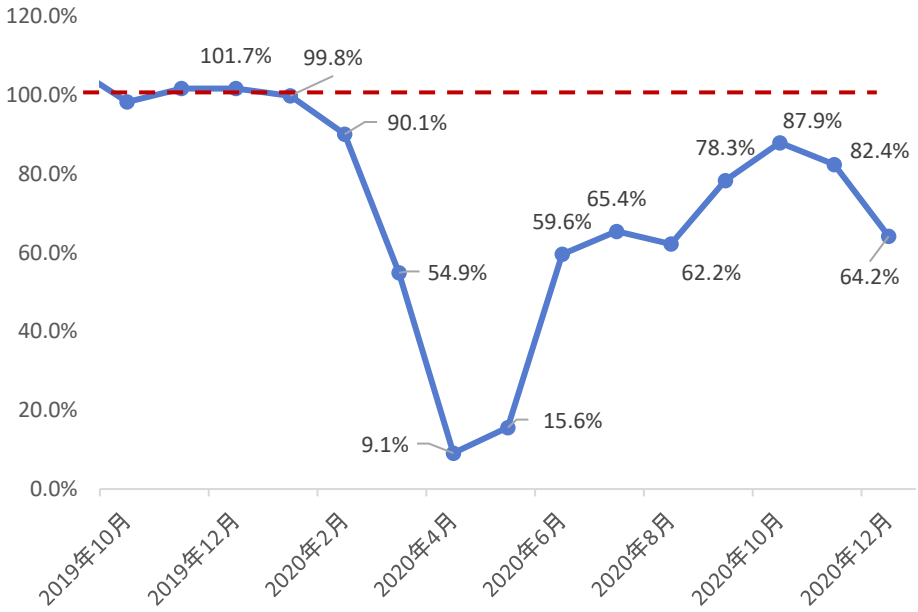
9月、10月と順調に回復していたが、11月下旬以降はコロナ禍の再拡大（第3波）に伴う時短営業等により失速。



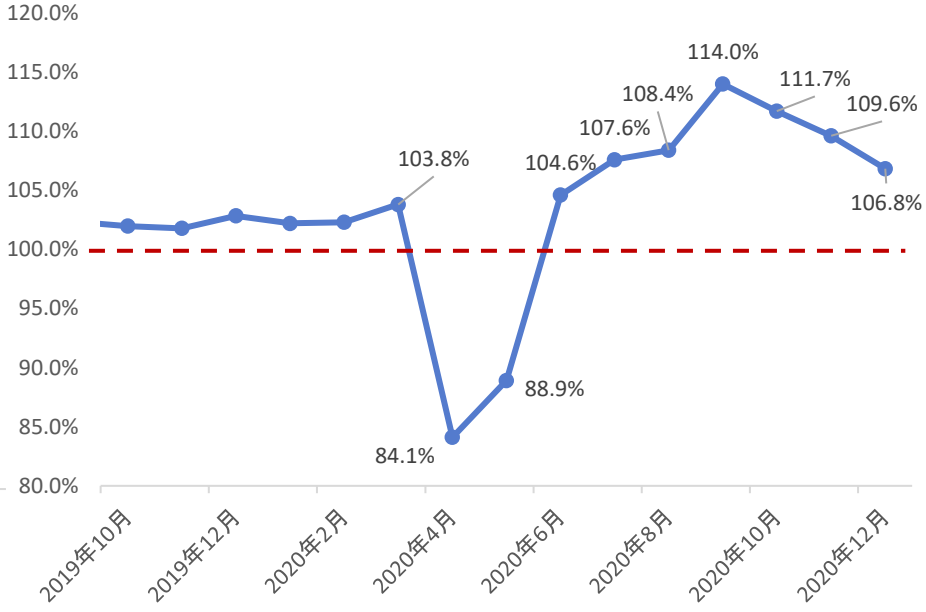
【店舗事業】 既存店客数・客単価（前年比）推移

営業時間の短縮等によりディナー帯の客数は大きく落ち込む一方、コロナ禍におけるライフスタイルの変化に伴ってランチの高単価化が進み、既存店の客単価全体の底上げに貢献。

店舗事業既存店客数　前年比

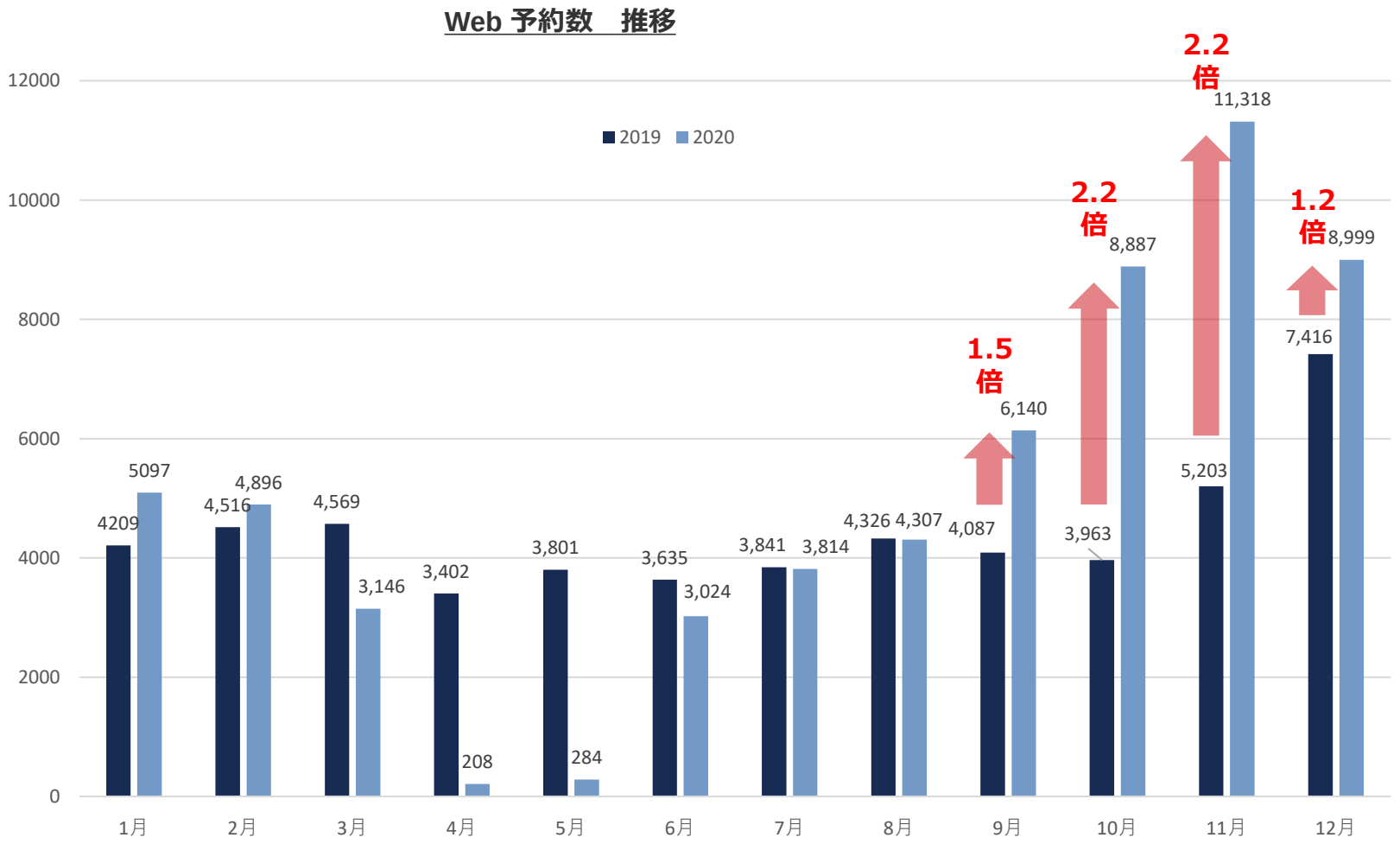


店舗事業既存店客単価　前年比



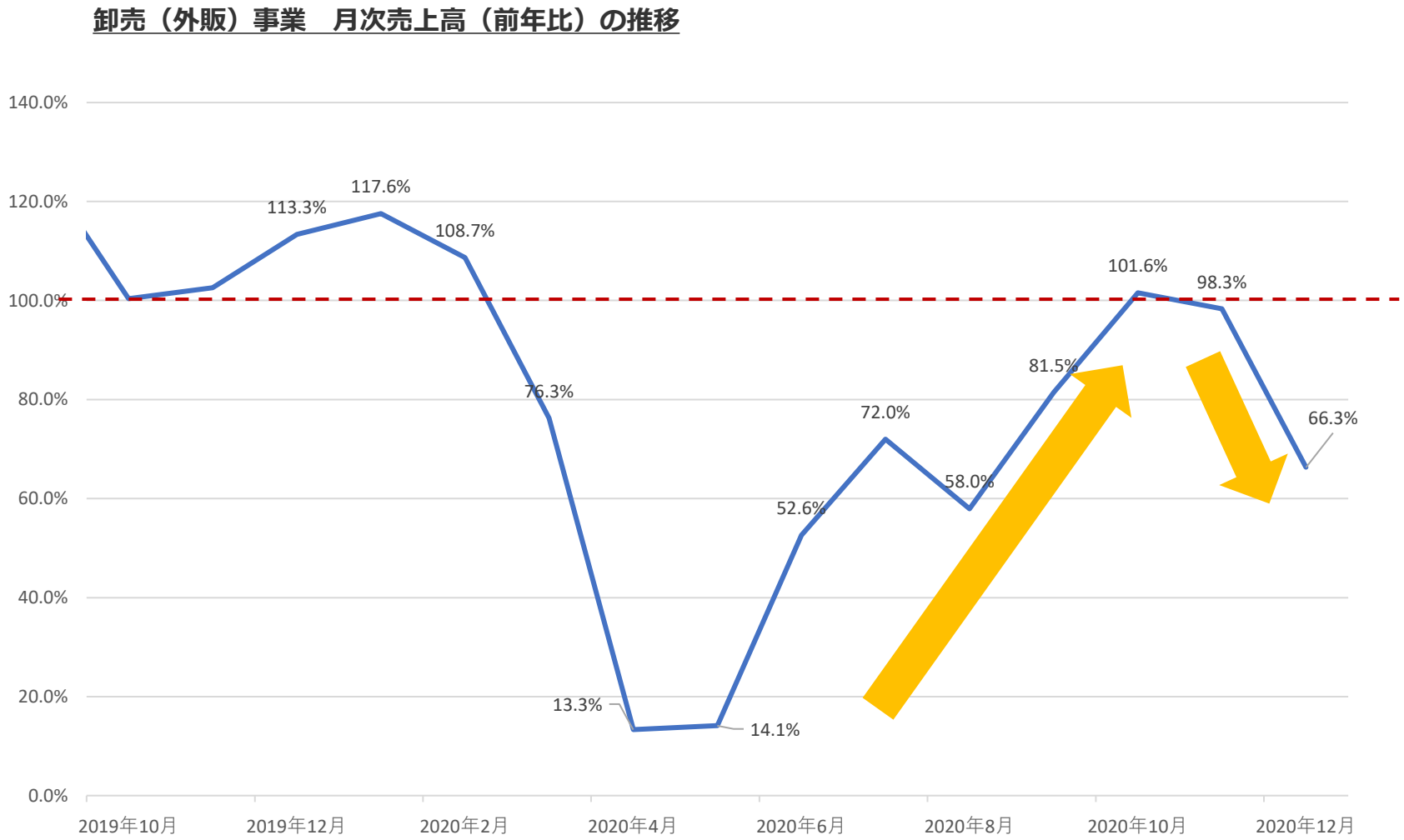
【店舗事業】 web 予約数 推移

web予約システムの改良により、コロナ禍の下でも、9月の予約数は前年比約1.5倍を実現。
さらに10～11月は「go to eat キャンペーン」などの効果もあり、前年比2.2倍に拡大した。

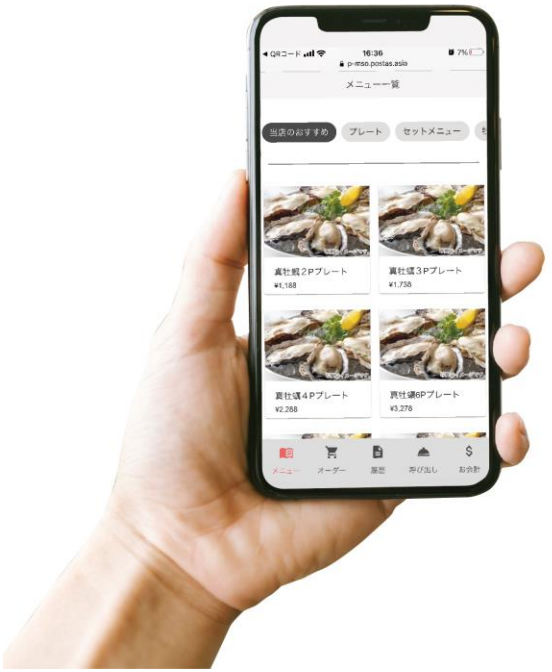


【卸売事業】 月次売上（前年比）の推移

「卸売事業」の売上高も、10月には対前年を超えるなど順調に回復傾向にあったが、
コロナ禍の再拡大（第3波）に伴って、11月下旬以降は失速。



2. 主な取り組み


16:36
メニュー一覧
当店のおすすめ
プレート
セットメニュー
真牡蠣2Pプレート
¥1,188
真牡蠣3Pプレート
¥1,738
真牡蠣4Pプレート
¥2,268
真牡蠣6Pプレート
¥3,278
メニュー
オーダー
履歴
呼び出し
お会計

取り組み内容について

General Oyster

1 経営基盤の強化

コロナ禍での売上低迷のリスクに備え、銀行借入など必要資金を確保し手元流動性を確保。

2 工場やセンターの機動的な稼働体制への転換

コロナ禍による事業への影響を踏まえ、キャッシュアウト削減の観点から、工場やセンターなど各拠点について、
一部稼働休業、時間短縮など機動的な稼働体制を継続

3 店舗及び、センターなどの取り組み

お客様と従業員の安心安全を確保するための施策を強化・徹底
　【消毒液（微酸性電解水）を店内すべてのテーブルなどに設置、マスクの着用、手洗いの徹底】

4 非接触型の店舗運営のテストをスタート

QRコードによるオーダーシステムを一部店舗でテスト採用。スタッフを呼ばなくても、お客様自身の端末で料理やドリンクの注文ができるシステムを導入し、withコロナの店舗運営の体制強化へ。

5 EC通販サイトを立ち上げ、新たな販売チャネルの確立に取り組む

8月より、新規事業として、ご家庭で牡蠣を楽しめる「HOME OYSTER BAR」のD2C型のECサイトを立ち上げ。
牡蠣の新たな楽しみ方の提案および、販売チャネルの多角化により、収益力のUPに取り組む

コロナ禍の月別損益

General Oyster

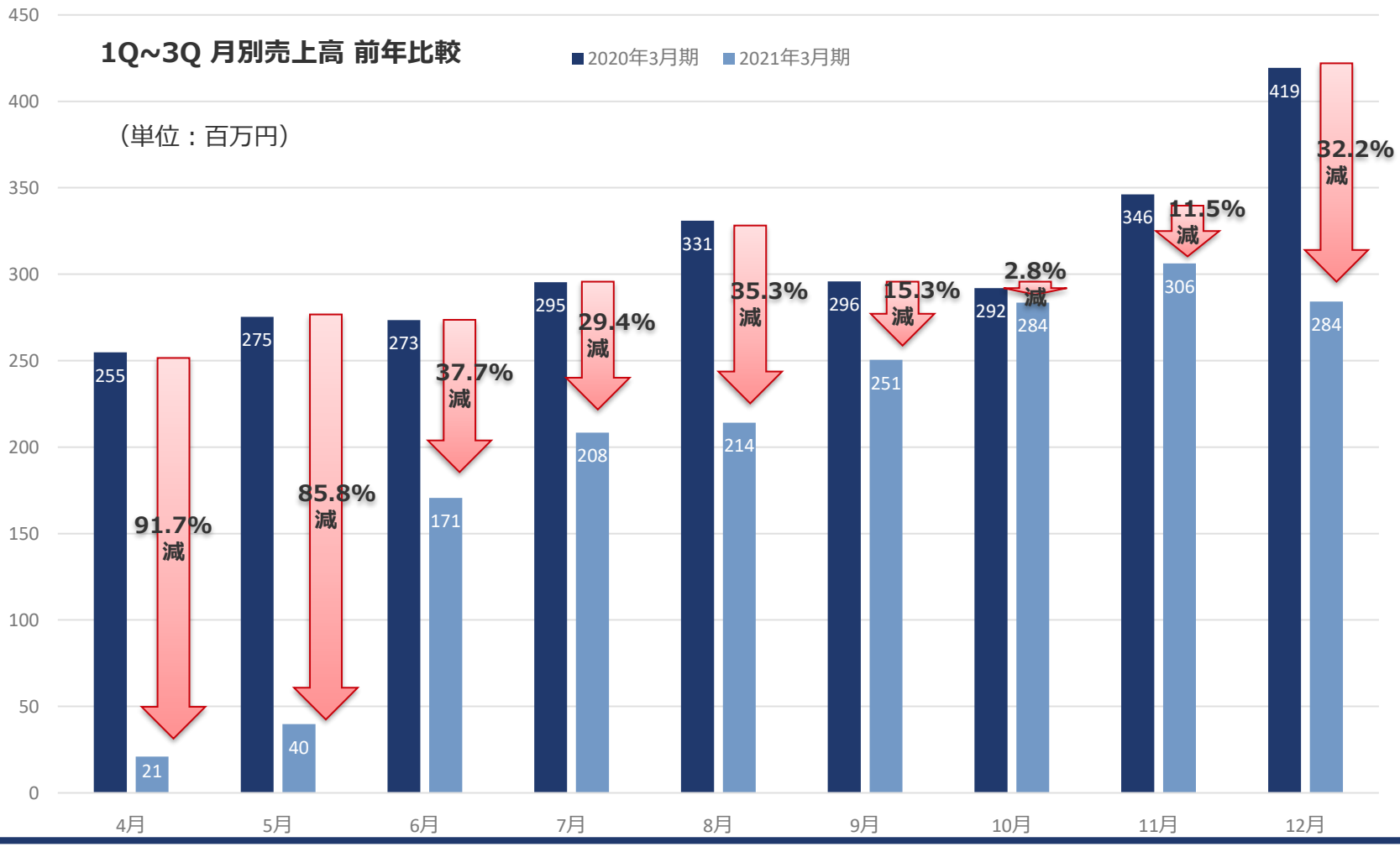
10月の売上高は前期並みに戻るとともに、損益分岐点の引き下げにより黒字化を達成。
11月下旬以降はコロナ禍の再拡大により、売上高の回復は失速するも黒字を継続。

	10月			11月			12月			第3四半期（10月～12月）		
	2019	2020		2019	2020		2019	2020		2020	2021	
	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）	実績（百万円）	実績（百万円）	前年比（%）
売上高	292.0	**283.6**	-2.9	346.2	**306.2**	-11.5	419.4	**284.2**	-32.2	1057.7	**874.1**	-17.3
売上原価	105.7	**102.0**	-3.5	108.9	**106.9**	-1.9	130.7	**91.9**	-29.7	345.4	**300.8**	-12.9
売上総利益	186.2	**181.6**	-2.5	237.2	**199.3**	-16.0	288.7	**192.3**	-33.4	712.2	**573.2**	-19.5
販管費	207.1	**177.1**	-14.5	218.6	**184.9**	-15.4	232.2	**180.3**	-22.3	658.1	**542.4**	-17.6
営業利益	△20.8	**4.4**	-	18.5	**14.3**	-22.6	56.4	**11.9**	-78.9	54.1	**30.7**	-43.2

コロナ禍による売上高への影響

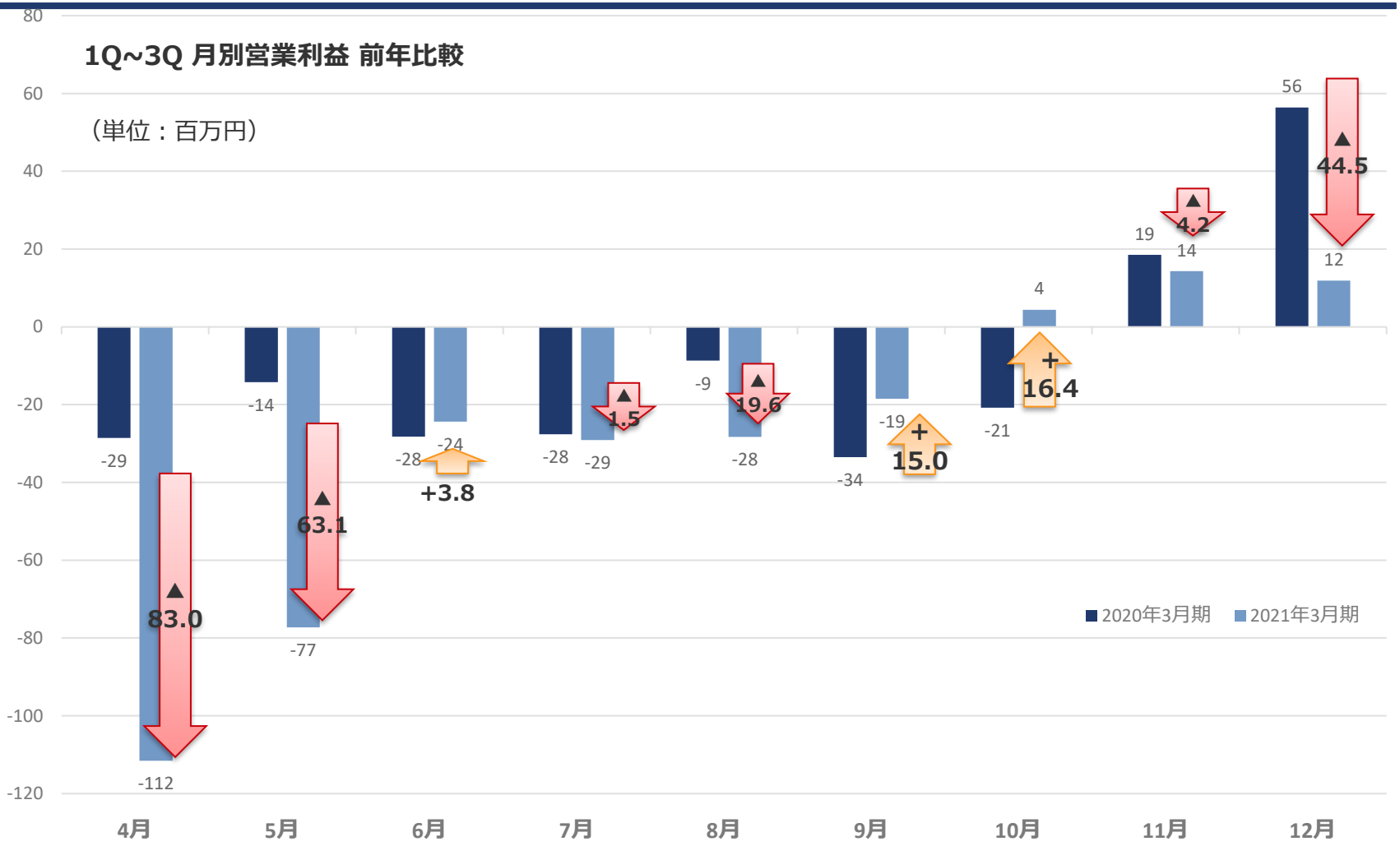
General Oyster

4月をボトムに回復傾向にあったが、11月下旬以降、コロナ禍（第3波）の影響により、落ち込み幅が再拡大。



コロナ禍による損益への影響

9月、10月は機動的な稼働体制への転換などにより、前年比で損益改善に成功。
11月、12月はコロナ禍（第3波）の下でも黒字継続

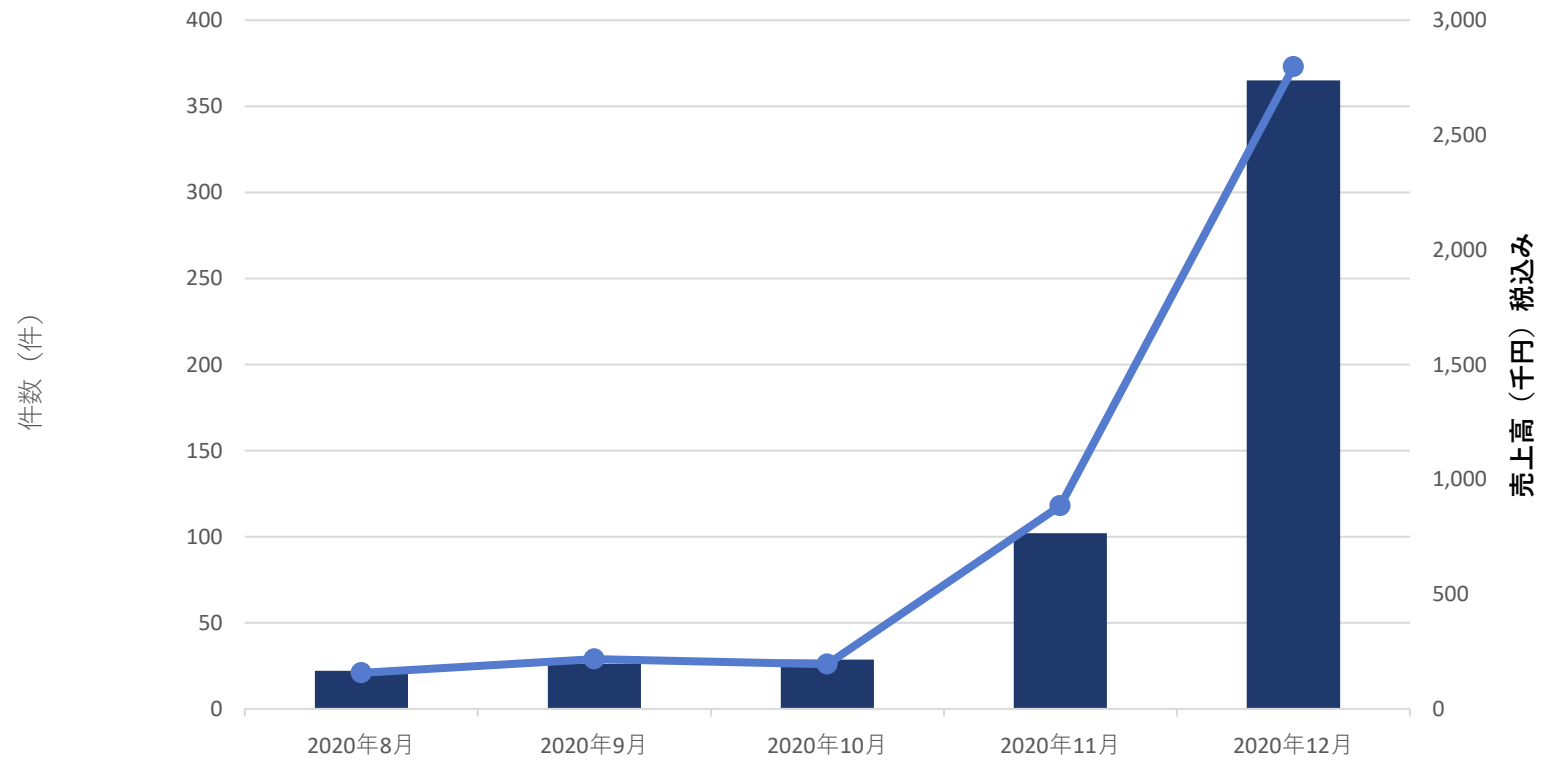


D2C型のEC通販サイトのスタート

General Oyster

金額的にはまだ小さいながら、受注件数、金額とも順調に拡大。コロナ禍における
新たな販売チャネルの多角化により、今後の収益力の拡大を目指す。

EC通販事業の売上件数と、売上高（受注ベース）



	2020年8月	2020年9月	2020年10月	2020年11月	2020年12月
売上高（千円）	166	197	215	766	2,738
件数	21	29	26	118	373

3. 2021年3月期 業績見通しについて



通期業績の見通しについて

General Oyster

現時点では通期業績の合理的な見積りが困難なため、2021年3月期の連結業績予想は引き続き「未定」とし、今後見通しが立った時点で速やかに公表させていただきます。

（百万円）	2020年3月期 通期実績	2021年3月期 連結業績予想	前年同期比 （%）
売上高	3,579	未定	-
営業利益	▲146		-
経常利益	▲157		-
当期純利益	▲106		-

※今回、コロナ禍の再拡大（第3波）に伴う2度目の緊急事態宣言が出されたことを受け、営業時間短縮等による影響が不透明であることから、現時点での業績予想は「未定」とさせていただきます。

General Oyster

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。